



ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省  
秋田労働局

大館労働基準監督署

令和元年12月5日

照	大館労働基準監督署
会	署長 昆 仁
先	安全衛生課長 山谷博樹
	電話 0186 42 4033

## ~冬季の転倒災害防止について~

当署管内（大館市、北秋田市、鹿角市、小坂町及び上小阿仁村）における「転倒災害」の発生状況は、近年増減を繰り返し、昨年は全災害の22.4%を占め、「事故の型」別で最も多い状況で、また冬季間（12月～3月）に多発しています。

秋田労働局及び県内各労働基準監督署では、今冬における転倒災害防止の一環として、「転倒防止新聞」（資料1）及び「STOP! 転倒災害ポスター」（資料2）を作成し、管内事業場への配布や、秋田労働局のホームページへの掲載等により、凍結路面等の対応など転倒災害防止対策の取り組みを呼び掛けています。

### 【管内の転倒災害の特徴】

- ・業種別（H25～H30）では、商業が23%と最多で、次いで、保健衛生業が20.9%、製造業が20.2%の順となっています。（別紙1・図表4）
- ・月別（H25～H30）では、**冬季（1月、2月、3月及び12月）に、約6割（59.9%）**発生している状況となっています。（別紙1・図表6）
- ・冬季における転倒災害の発生場所（H28～H30）は、屋外が68%、屋内が32%となっており、そのうち、雪や凍結路面等が起因した転倒災害の発生場所は、**駐車場（車周辺）が32%、事業場敷地内の通路等が30%、事業場の出入口（段差・スロープ等）が15%、事業場外（道路等）が23%**となっています。（別紙2・図表7・8）
- ・冬季における転倒災害の発生時間帯（H28～H30）では、9時帯が最多で13%、次いで8時帯が12%、17時帯が10.9%、11時帯が8.7%の順となっています。（別紙3・図表9）
- ・冬季における転倒災害の被災者の年齢別（H28～H30）では、50歳代が36%、60歳以上も同じく36%と、**50歳以上の高齢労働者の占める割合が72%**を占めています。（別紙4・図表10）
- ・冬季における転倒災害の被災程度別（H28～H30）では、**休業1か月以上3か月未満が41%**と最多で、次いで、2週間以上1か月未満が37%、3か月以上6か月未満が12%と、**一度発生すると、休業日数は長期化する傾向を示しています。**（別紙4・図表11）

### 【転倒災害防止対策】

- ・**屋外通路の除雪、融雪剤等の散布、滑りにくい靴の着用、転倒危険箇所への注意喚起の設置等**があります。
- ・屋内での対策としましては、4Sによる安全通路の確保、転倒しにくい作業方法の励行、適切な照明の確保、作業に適した作業靴の着用、危険マップの作成及び注意喚起用ステッカーの掲示等について周知しています。（資料3）
- ・社内での取り組みの検討、実施、教育をお願いします。

## 添付資料等

- 別紙 1 転倒災害の発生状況
  - 別紙 2 冬季（1・2・3・12月）の転倒災害・発生場所
  - 別紙 3 冬季（1・2・3・12月）の転倒災害・時間別発生件数
  - 別紙 4 冬季（1・2・3・12月）の転倒災害・年齢別、程度別
- 
- 資料 1 転倒防止新聞
  - 資料 2 STOP！転倒災害ポスター
  - 資料 3 STOP！転倒災害プロジェクト

転倒災害の発生状況

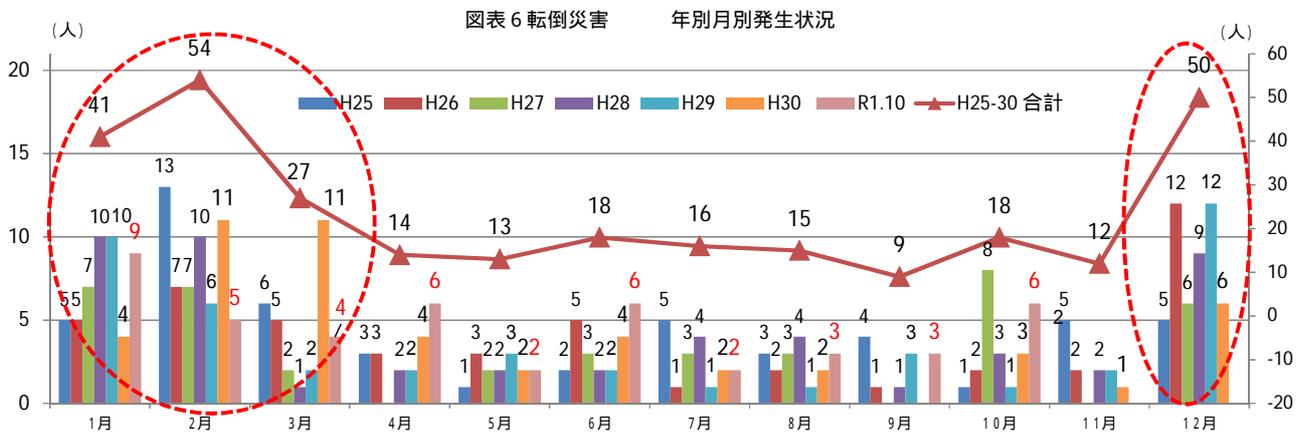
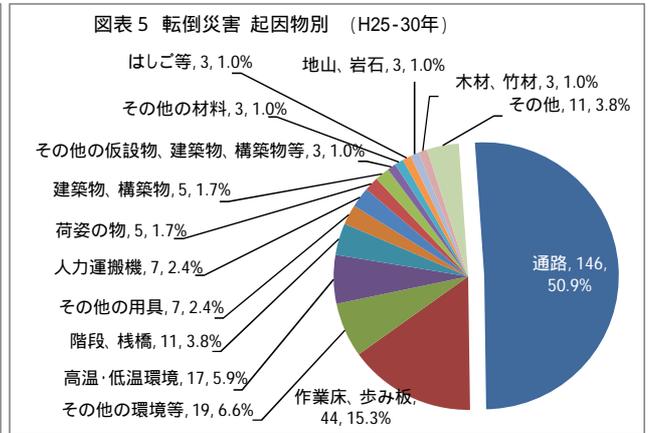
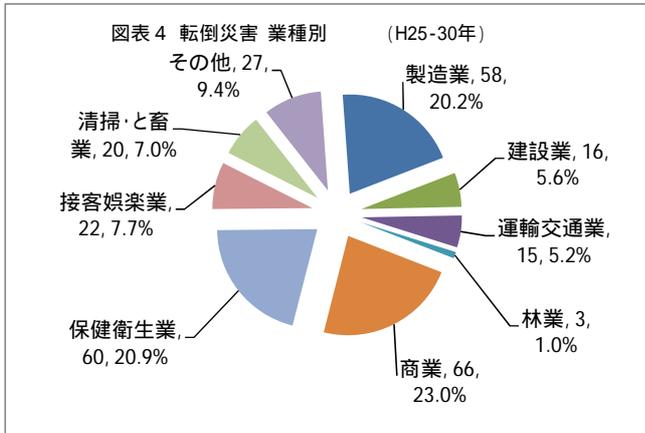
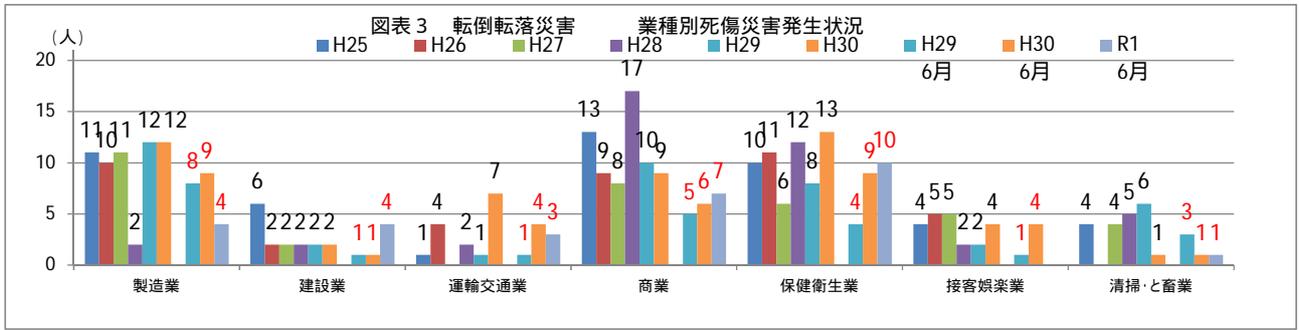
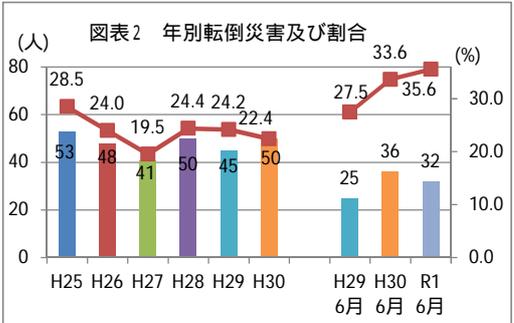
(被災者数は、労働者死傷病報告(休業4日以上)をまとめたもの。)

大館労働準監督署

- ・転倒による死傷災害は増減を繰り返している。H30年では、全災害に占める割合が22.4%で事故の型別では最多。
- ・業種別では、H25-30年において商業が最多、次いで保健衛生業、製造業の順。H30年は保健衛生業が最多で次いで製造業、商業となっている。なお、例年に比べ運輸交通業での災害が目立った。
- ・起因物別では、通路、作業床の順で、この2つで6割以上を占めている。
- ・時季的には、12月、1、2月が多いが、年間を通じて発生している。H30年は特に2、3月に多発した。
- ・転倒災害における50歳以上の被災者の割合は、H25～29年において69.6%(全事故の型 52.1%)を占めており、H30年は71.4%(同58.7%)と、高齢労働者が被災する傾向が増加している。
- ・令和元年上半期は、前年同期と比べ4人(11.1%)の減少。製造業で5人減少、接客業で4人減少も、建設業で3人増加。
- ・月別では、1月が9人と最多、なお、2月、3月、4月及び6月にも一定数発生。

図表 1 転倒災害業種別(大分類)災害発生状況

業種	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H29	H30	R1	前年比	増減率	25-30
	6月											
製造業	11	10	11	2	12	12	8	9	4	5	-55.6%	58
鉱業									1	1	#DIV/0!	0
建設業	6	2	2	2	2	2	1	1	4	3	300.0%	16
運輸交通業	1	4		2	1	7	1	4	3	1	-25.0%	15
林業			1	2					1	1	#DIV/0!	3
商業	13	9	8	17	10	9	5	6	7	1	16.7%	66
保健衛生業	10	11	6	12	8	13	4	9	10	1	11.1%	60
接客娯楽業	4	5	5	2	2	4	1	4		4	-100.0%	22
清掃・と畜業	4		4	5	6	1	3	1	1	0	0.0%	20
その他	4	7	4	6	4	2	2	2	1	1	-50.0%	27
小計	53	48	41	50	45	50	25	36	32	4	-11.1%	287
割合(%)	28.5	24.0	19.5	24.4	24.2	22.4	27.5	33.6	35.6			23.7
全事故の型	186	200	210	205	186	223	91	107	90			1210

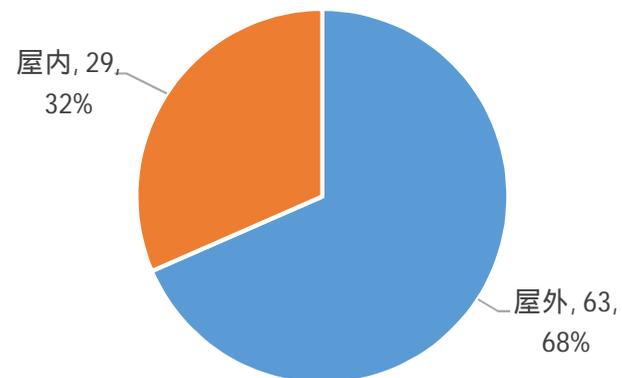


## 冬季（1・2・3・12月）の転倒災害・発生場所

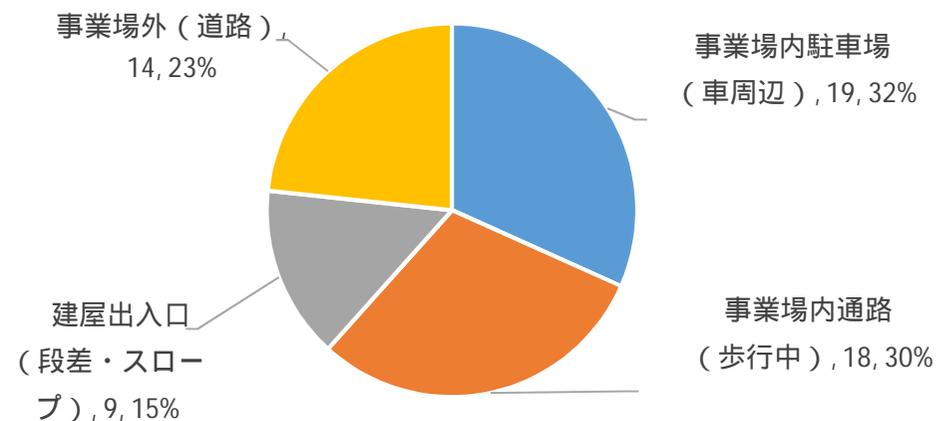
大館労働基準監督署

年	屋外	屋内	合計	内 訳				
				屋外の内、雪又は凍結等が起因	事業場内駐車場（車周辺）	事業場内通路（歩行中）	建屋出入口（段差・スロープ）	事業場外（道路）
H30	19	13	32	19	12	5	2	0
H29	20	10	30	18	4	8	3	3
H28	24	6	30	23	3	5	4	11
合計	63	29	92	60	19	18	9	14

図表7 冬季転倒災害発生場所別（H28～H30大館署）



図表8 冬季転倒災害のうち雪又は凍結等が起因（H28～H30大館署）

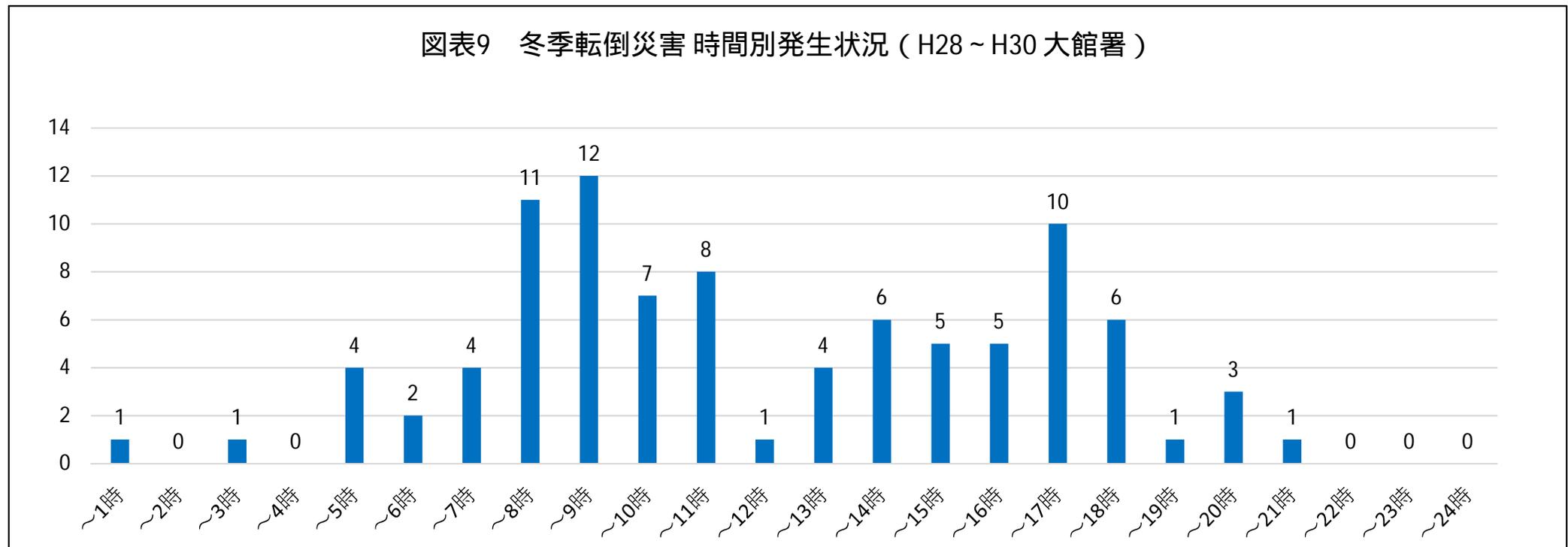


## 冬季（1・2・3・12月）の転倒災害・時間別発生件数

大館労働基準監督署

	～1時	～2時	～3時	～4時	～5時	～6時	～7時	～8時	～9時	～10時	～11時	～12時	～13時	～14時	～15時	～16時	～17時	～18時	～19時	～20時	～21時	～22時	～23時	～24時	合計
H30			1				1	4	5	2	5		2	3	1		4	3		1					32
H29					2		2	4	1	4	2		1		3	2	3	2	1	2	1				30
H28	1				2	2	1	3	6	1	1	1	1	3	1	3	3	1							30
合計	1	0	1	0	4	2	4	11	12	7	8	1	4	6	5	5	10	6	1	3	1	0	0	0	92

図表9 冬季転倒災害 時間別発生状況（H28～H30 大館署）

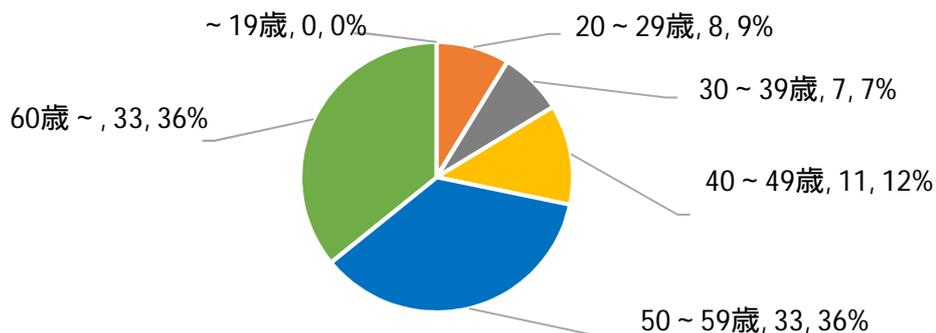


## 冬季（1・2・3・12月）の転倒災害・年齢別

大館労働基準監督署

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
H30	0	4	2	2	9	15	32
H29	0	2	2	5	11	10	30
H28	0	2	3	4	13	8	30
合計	0	8	7	11	33	33	92

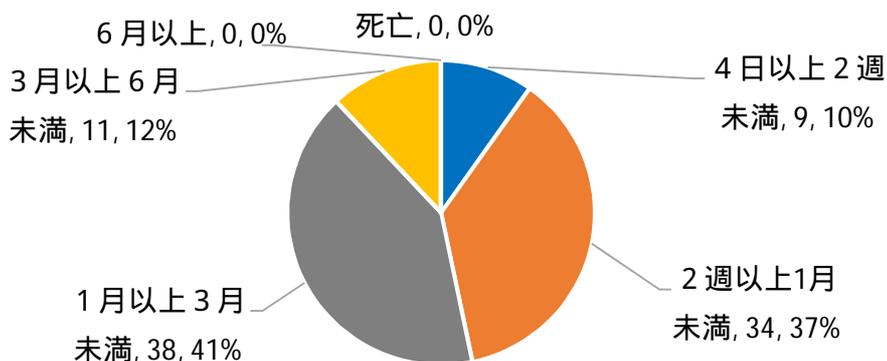
図表10 冬季転倒災害 年齢別発生状況（H28～H30 大館署）



## 冬季（1・2・3・12月）の転倒災害・程度別

	4日以上 2週未満	2週以上 1月未満	1月以上 3月未満	3月以上 6月未満	6月以上	死亡	計
H30	5	13	9	5	0	0	32
H29	2	12	14	2	0	0	30
H28	2	9	15	4	0	0	30
合計	9	34	38	11	0	0	92

図表11 冬季転倒災害 被災程度別（H28～H30 大館署）



# 転倒防止新聞

発行：2019.12  
秋田労働局  
健康安全課  
秋田市山王7-1-3  
TEL:018-862-6683

## 発表 転倒災害発生場所ランキング



### 転倒災害多発の場所ってどこ？

労働災害のうち発生件数が最も多いのが転倒災害です。転倒災害は、全業種で多く発生し、休業4日以上労働災害の3割を占めています。特に、冬季における路面凍結期に災害が多発しています。そのため、通勤時などを含めた対策が必要なのですが、対策箇所が広範囲となることや冬場は滑るのが当たり前、個人が気を付けるだけでは考え、対策が後回しにされがちなのです。

しかし、転倒災害を防止することは、企業における労働災害の3割を減らすことと同じであり、転倒災害の防止は工場内で機械に巻き込まれたり、建築現場で高所から墜落したりする災害と同様の防止対策が求められます。

#### 第一位は駐車場内

冬期間における転倒災害は駐車場で一番多く発生しています。駐車場は朝晩の気温の低い時間帯に使用することが多く、特に車から降りた直後に転倒するケースが多くなっています。駐車場内は車の走行により圧雪状態となり、滑りやすい状態が作られることが原因と考えられます。

第二位は、屋外通路です。複数の働いている方が同じ場所を歩くため、通路が踏み固められて滑りやすくなります。第三位は出入口です。屋内から屋外に出るとき、歩行環境が変化して転倒することが多く、履物も内履きのまま外に出て転倒するケースが目立ちます。



「氷と水」があれば滑るのですから、道路が凍結して路面に水があれば車もスリップします。水が氷になると、体積が膨張することは理科で習いましたが、体積が膨張した分、氷は不安定で、圧力をかけると0度以下でも水に戻ろうとして解けます。

### 氷はなぜ滑るの？

滑る理由を尋ねると、「凍っているから滑る」と回答する方が多いものです。しかし、凍った氷で滑るならスケートリンクにドライアイス撒けば、もっと滑るはずですが結果は、全く滑りません。

滑るのは、氷だけではなく氷の表面に水があるからです。映画などでカウター上でグラスを滑らして相手に渡すシーンがありますが、この滑る理屈も同じです。下図のように、コップとテーブルとの間にある水の膜が滑りやすくしているのです。

### 危険 「氷+水」が滑る条件

つまり、ドライアイスが吹き付けた場合は、水が凍りつき、氷だけになるため滑らなくなるのです。

### 車がスリップする原因

「氷と水」があれば滑るのですから、道路が凍結して路面に水があれば車もスリップします。水が氷になると、体積が膨張することは理科で習いましたが、体積が膨張した分、氷は不安定で、圧力をかけると0度以下でも水に戻ろうとして解けます。



### 正しい靴選びが重要

～靴底のメリット・デメリット～

#### 【金属ピンタイプ】

【メリット】アイスバーンに強い  
【デメリット】床タイルでは滑りやすい

#### 【深溝タイプ】

【メリット】湿雪でのグリップ強い  
【デメリット】アイスバーンで滑る

#### 【柔らかいゴムタイプ】

【メリット】スタッドレスタイヤと同等の効能あり  
【デメリット】経年劣化が早い

#### 【耐滑材配合タイプ】

【メリット】ガラス繊維・アルミ粒子・セラミックなどは効果あり  
【デメリット】配合剤により効果大差有、購入時にわかりづらい

### 朝は転倒事故が多発

「7時から9時が危険」

転倒による労働災害は朝7時から9時をピークに多発しています。出勤後、敷地駐車場内を歩いている時や、店舗の営業開始に向けた準備作業など、屋内と屋外を出入りする機会が多い時間帯に発生しています。

### 休業期間が長期化

転倒災害による負傷部位の多くは、頭部・手首・大腿等を負傷しており、その休業日数は1ヶ月を超えています。頭部は転倒時にかばうことなく、地面等に強打するため重症化しやすく、大腿においては、足の付け根の骨を骨折することで、治療も長期化するケースがほとんどです。たかが「転んだだけ」の事故が大きな怪我につながる可能性があります。もし、会社内で信頼している人が突然今日から1ヶ月以上休む状態になることを考えたらずっとしまいませんか？

### 今から出来る転倒防止対策

- ① 屋外通路に融雪剤の設置  
融雪剤は捲いてから1時間後に効果を発揮します。適宜融雪剤を散布して凍結防止を行いましょ。
- ② 滑りにくい靴の着用  
作業場所に合わせた滑りにくい靴を着用して作業しましょう。
- ③ 転倒危険箇所に注意表示の設置  
建物の出入口や、過去に転倒事故の発生した場所などに注意表示を設置しましょう。
- ④ 人感センサーの照明で明るさを確保  
冬季は暗くなるのが早いので照明で足元を確認しやすくしましょう。
- ⑤ 始業前に体操などで体をほぐす  
朝9時頃が転倒事故の多発時間です。体操などで体を目覚めさせましょう。
- ⑥ 慌てることも危険要因！  
焦っていると注意も散漫になります。時間に余裕を持って行動しましょう。
- ⑦ 転倒事故防止教育の実施  
社内ミーティングなどで転倒防止対策を検討しましょう。

### 編集後記

「転倒事故防止対策に特効薬はなし。」  
転倒事故はどこで発生するか分からないため管理しにくい事故防止対策ではあります。紹介したような特徴的な場所も多く発生していることも分かっています。出来ることから少しずつ継続して転倒事故防止対策に取り組んでいただくよう、お願い致します。(健康安全課)

**安全第一**  
**グリーンクロス君**  
～放射冷却発生中！の巻～

朝から冬晴れ放射冷却発生中

うまい食堂 クロス君 開店するからポリ出して

ハイ！面倒だから内履きのままで行こうと

営業中

外履きに履き替えれば良かった

足元注意

低い段差



通路の不要物



STOP! 転倒災害



ぬれた床



くぼみや凍結箇所



そこ! 転ぶよ。





# STOP! 転倒災害

## プロジェクト

## 転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート



チェック項目		<input type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などを標識などで注意喚起していますか	<input type="checkbox"/>
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

### チェックの結果は、いかがでしたか？

問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！ 次頁の「見える化」も効果的です!!

## 転倒危険場所を見える化しましょう！

転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への共有を図ることが大切です。危険場所に下のステッカーの掲示を行うなど、転倒の危険を見える化しましょう！

※下のステッカーは、「STOP！転倒災害プロジェクト」のホームページからもダウンロードできます。

切り取り線

転倒危険！



コメント

# STOP! 転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体では、**転倒災害**を撲滅するため「**STOP! 転倒災害プロジェクト**」を推進しています。

STOP! 転倒

事業者の皆さまは、職場の**転倒災害防止対策**を進めていただくとともに、適時にチェックリストを活用した**総点検**を行い、安全委員会などでの調査審議などを経て、**職場環境の改善**を図ってください。

## 転倒災害の特徴

### 特徴1 **転倒災害は最も多い労働災害!**

休業4日以上労働災害、約12万件のうち、転倒災害は**約2.8万件**と最も多く発生しており、近年増加傾向です。

### 特徴2 **特に高齢者で多く発生!**

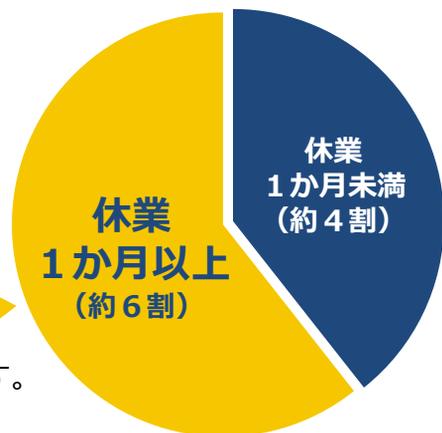
高齢者ほど転倒災害のリスクが増加し、55歳以上では55歳未満と比較してリスクが**約3倍**に増加します。

### 特徴3 **休業1か月以上が約6割!**

転倒災害による休業期間は**約6割が1か月以上**となっています。

### 特徴4 **冬季に多く発生!**

**降雪の多い地域**では、冬季に多く発生しています。



「平成29年転倒災害による休業期間の割合」 労働者死傷病報告 (厚生労働省) より作成

## 転倒災害の主な原因

▶ 転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか？

滑り	つまずき	踏み外し
		
<p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>床が滑りやすい素材である。</li><li>床に水や油が飛散している。</li><li>ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。</li><li>路面等が凍結している。</li></ul>	<p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>床の凹凸や段差がある。</li><li>床に荷物や商品などが放置されている。</li></ul>	<p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。</li></ul>

## 転倒災害防止対策のポイント

▶ 転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。

4S (整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"><li>歩行場所に物を放置しない</li><li>床面の汚れ (水、油、粉など) を取り除く</li><li>床面の凹凸、段差などの解消</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>時間に余裕を持って行動</li><li>滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行</li><li>足元が見えにくい状態で作業しない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>移動や作業に適した靴の着用</li><li>職場の危険マップの作成による危険情報の共有</li><li>転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起</li></ul>

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください！  
「**STOP! 転倒災害プロジェクト**」

STOP! 転倒